

# BelaPd C1

1コース期間： 28日

所要時間： 2時間

Rp	薬剤名	投与量	投与方法	投与速度	投与時間	day1	day8	day15	day22
1	生食 100mL デキサメタゾン 33mg <sup>※</sup>		div	200mL/hr	30分	○			
2	生食 100ml <sup>※1</sup> ペランタマブ マホドチン 【            】mg 注射用水 【            】ml <sup>※2</sup> <sup>※1</sup> Bela200mgを超えた場合、生食250mLに変更 <sup>※2</sup> 注射用水mL=ペランタマブ マホドチン÷50	2.5mg/kg	div	200mL/hr	30分	○			
3	生食 100mL		div	100mL/hr	60分	○			
内服	ポマリドミド	4mg/日	内服 分1 夕食後			day1-21			
内服	デキサメタゾン内服 <sup>※</sup>	40mg/日	内服 分1 朝食後				○	○	○

## コメント

### 【ペランタマブ マホドチン】

- ・本剤による治療において眼障害が発現する可能性があり、一部の眼障害は視力変化を伴わずに発現することがあるため 本剤の投与開始前に眼科医による診察を実施。眼科検査（視力検査及び細隙灯顕微鏡検査を含む）は「本剤の初回から4回目までの各投与前」に必ず実施し、「その後の投与期間中は必要に応じて」実施すること。
- ・ドライアイ等の眼症状を軽減するため、本剤投与中は防腐剤を含まない人工涙液（ソフトサンティア、なみだロートファイブ等）を1日4回以上投与。
- ・本剤の投与中（休薬期間中を含む）はコンタクトレンズの装着を避けるよう血液内科医が患者を指導。

### 【デキサメタゾン】

- ・※75歳を超える、併存疾患を有する、またはまたはデキサメタゾンの開始用量に忍容性がない場合は20mgへの減量が可能
- ・Day8.15.22のデキサメタゾンは原則経口投与。経口投与が困難な場合には点滴投与（点滴投与の場合、33mg）

### 【ポマリドミド】

- ・ポマリドミド内服（4mg分1 夕食後）をday 1-21まで併用する。
- ・ポマリドミドの投与期間中、患者のリスクに応じて血栓予防目的用量のアスピリン腸溶錠を投与する。
- ・アスピリンアレルギーの既往がある場合には、エドキサバントシル、クロピドグレル、低分子ヘパリンまたはワルファリンを投与する。
- ・深部静脈血栓症の既往を有する場合には、INR2~3を目標値として、エドキサバントシル、低分子ヘパリンまたはワルファリンを投与する。
- ・PLTが5万以下かつ出血が認められた場合、抗血栓薬を中止する。

## BelaPd C2以降

1コース期間： 28日

所要時間： 1時間15分

Rp	薬剤名	投与量	投与方法	投与速度	投与時間	day1	day8	day15	day22
1	生食 100mL デキサメタゾン 33mg ※		div	200mL/hr	30分	○			
2	生食 100ml ※1 ベランタマブ マホドチン 【      】mg 注射用水 【      】ml ※2 ※1 Bela200mgを超えた場合、生食250mLに変更 ※2 注射用水mL=ベランタマブ マホドチン÷50	1.9mg/kg	div	200mL/hr	30分	○			
3	生食 50mL		div	200mL/hr	15分	○			
内服	ボマリドミド	4mg/日	内服 分1 夕食後			day1-21			
内服	デキサメタゾン内服※	40mg/日	内服 分1 朝食後				○	○	○

### コメント

【ベランタマブ マホドチン】  
 ・本剤による治療において眼障害が発現する可能性があり、一部の眼障害は視力変化を伴わずに発現することがあるため、本剤の投与開始前に眼科医による診察を実施。眼科検査(視力検査及び細隙灯顕微鏡検査を含む)は「本剤の初回から4回目までの各投与前」に必ず実施し、「その後の投与期間中は必要に応じて」実施すること。  
 ・ドライアイ等の眼症状を軽減するため、本剤投与中は防腐剤を含まない人工涙液(ソフトサンティア、なみだロートファイブ等)を1日4回以上投与。  
 ・本剤の投与中(休業期間中を含む)はコンタクトレンズの装着を避けるよう血液内科医が患者を指導。

【デキサメタゾン】  
 ※75歳を超える、併存疾患を有する、またはまたはデキサメタゾンの開始用量に忍容性がない場合は20mgへの減量が可能  
 ・Day8,15,22のデキサメタゾンは原則経口投与。経口投与が困難な場合には点滴投与(点滴投与の場合、33mg)

【ボマリドミド】  
 ・ボマリドミド内服(4mg分1夕食後)をday 1-21まで併用する。  
 ・ボマリドミドの投与期間中、患者のリスクに応じて血栓予防目的用量のアスピリン腸溶錠を投与する。  
 ・アスピリンアレルギーの既往がある場合には、エドキサバントシル、クロピドグレル、低分子ヘパリンまたはワルファリンを投与する。  
 ・深部静脈血栓症の既往を有する場合には、INR2~3を目標値として、エドキサバントシル、低分子ヘパリンまたはワルファリンを投与する。  
 ・PLTが5万以下かつ出血が認められた場合、抗血栓薬を中止する。